

何とも今年の夏は暑い、そして熱い。

気温も40度に達する勢いである上、リオデジャネイロ五輪、イチローの3000本安打達成、甲子園の高校野球など、連日、炎の熱戦に血わき肉躍り、文字通り、身も心もくぎ付けた。

中でも体操男子の内村航平選手の金メダル獲得は、われわれに感動以上のものをもたらした。ご両親が太平洋を航る活躍を願い、名付けた「航平」、選手が世界中の海を越え、人々を深く感動させたのだ。

内村氏は世界一美しく素晴らしい体操を実現するために、誰よりも厳しい練習を人一倍積み重ね、心・技・体のすべてで金メダルを受けるにふさわしい実力を身に付けた。

その内村氏の夢だった「体操男子団体の総合金メダル」を目標に、選手全員が一丸となり、全身全霊を傾け、自己を超越して仲間のために最高

金メダルに思う亡き父の面影



の演技を披露した。不動の友情と絆が生んだこの結束力こそが世界に誇る「日本の美しき大勝利」を生んだ。

人と人が簡単に信じ合えない時代に、同種目のライバルでもある仲間とあれほど信じ合え、心をついに苦楽を分かち合える彼らは偉大である。そして、選手を支え続けてきたお母さま方も皆、仲が良く、当日は会場で声の限りに声援を送っていたが、実はわが子の演技のときはとても正視できずにいたようだ。

こうした純粋で一途な選手たちの姿勢と家族愛はスポーツが本来有すべき高い精神性を示してくれた。内村選手が

個人総合で大逆転したとき、銀メダルに甘んじたオレグ選手のコメントは彼への畏敬を込めた大変立派なものだった。

私の父も無類のスポーツ好きだったので、私はその影響を受けて育った。愛する父が今回の五輪を見たならどれほど感激しただろう。父も「娘の舞台はいつも心配なんだ」と苦笑していた。親ほど有り難いものはない。そんな愛する父の棺に熱い想いと感謝の涙をささげた夏でもあった。

(さとう・しのぶ＝声楽家)

＝毎月第3金曜日掲載

